

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 7年 5月17日
(143号)

中之島ニュース

【事務局】 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
事務局 古田修平
編集長 西村俊幸

「父 鍵山秀三郎より学んだ、後世に伝えること」

鍵山 幸一郎 先生

(四月度特別講義より)



■イエローハットでまず習うことは

いま日本でも多くの人間が、人に迷惑をかけることを何とも思わなくなっている。また、心を取り除く”ということをお掃除を通して生涯やり続けました。今日も昼食の後始末を皆様にしていたいただきましたが、細かい決まり事があることに驚かされたかもしれません。もし皆が食い散らかしてしまふと、それを片づけるスタッフの心は荒むでしょう。しかし片づけ易く各々がちよつと分別するだけでそれは防げるのです。ゴミの出し方を見ればその人が解る、と言われるのが、都内のある高級マンションにおけるゴミの出し方のなんと汚いことか。金持ちというのは、徳を積み重ねたからこそ富を得るのが従来の金持ちでしたが、先に金の遣い途を知らずに金を持つてしまふから、そのような粗末なことになるのです。

父から教わったことは途轍もなく凄くことではなく、やる気さえあればできる身近なことばかりです。イエローハットに入ってまず習うことは、「トイレ掃除」以外に「段ボール縛り」があります。イエローハットには、親父の考えた段ボールを四隅をきちんとそろえて縛る器具があります。それで縛ると決してバラバラになることはない。親父は回収する人のことを考えてその工夫をしたのです。会社には配送会社により様々な多くの荷物も届きますが、到着を知らせる業者のインターホンが鳴るとどうするか？まず会社の入り口

を開錠、そして印鑑とお菓子を持って業者さんが上がってくる前にエレベータのところまで走る。そして扉が開いたら荷物を受け取り、彼らにお菓子を渡し、その彼らの乗って来たエレベータに自分も乗って、業者さんを見送るのです。そこに費やされる時間は何分もかかりません。しかしこれを実行し続けることで、目には見えなくても大きく変わってゆくものがあります。

■隣のおじさん

先般の親父のお別れ会にはたくさんの方が遠方からお越しになられ、「先生のお蔭で人生が変わった」と言われておられました。人生が変わるとはどういうことか。人間とはいろんな軸を持ち生きていますが、元来物事を判断するときには自分軸。親父に出会い人生が変わったという方々のお話を伺うと、どうやら自分軸から他人軸になっておられるのではないかと感じます。

人間は誰しも日々困難との闘いです。そんなとき、自分一人の力で立ち向かうということとはなかなかできずに挫折してしまうでしょう。しかし、自分が困難に見舞われたときに教訓を持つておれば、打ち勝つことができます。

実家の隣、住宅地に二つのゴミ集積場があります。そのうちの一つはきっちり整然としています。そこは常に一人のおじさんがゴミの整理をしているからです。親父はいつもその前の道を車で通勤していました。そしてそのおじさんを見かけると、窓を開けて声を掛けるのではなく、一旦車を停め、降りておじさんにお礼を言い、また車に乗っていたそうです。ところがこのおじさんは、何度そう挨拶しても、応えるどころか一回たりとも振り返りもしない。そのような対応をされて、挨拶を続けられますか？普通は挫折するでしょう。ある日、このおじさんが亡くなりました。

その後しばらくしてそのご家族が挨拶に我が家へ来られました。「うちの主人はぶっきらぼうですが『鍵山さんは俺みたいな奴に丁寧な挨拶をしてくれる』とにこにこしていました」と聞かれます。これが教訓です。私自身、挨拶しても無視し続ける人に諦めず挨拶を続けることができたのは、この“教訓”のお蔭です。

■自分本位、他人本位

言っていることとやっていることが一致していることは大事なことです。口ではSDG,s などとうたつても、行動が無ければ意味がない。ここ朴の森では、できるだけゴミを出さないためにコンポストを作っています。

またおもてなしについても同様で、言っていることとやっていることに相違がないか？今皆さまが掛けておられる椅子を並べるときも、タコ糸を伸ばして乱れぬように配置しています。これが本当のおもてなしだと思っております。

自分の身につくこととは何か？それは行動に反映できるということです。

「気づく人になる」とは、口で言うのは簡単ですが、これは小さな一つ一つをやり続ける中でようやくやれるものです。

私自身がどういう生き方をしていくのかを考えるときに思うことは、一つは「自分の行動は使命に基いているかどうか」。使命に基いておれば、いかなる苦しいときでも乗り越えられる。そして二つ目は「悔いを残さぬ人生」。親父は病気をして複写はがきが書けなくなるまでは八万六千枚のはがきを書いてきました。体が悪くなり老人ホームに入ってから「あのままはがきを書いていたら十萬枚になつてたろうなあ」と悔しそうでした。

皆様がたには、自分本位ではなく他人本位となるきっかけを与えてくれる人が、身の回りには必ずいるのだと思います。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》 鍵山 幸一郎 先生

◆Aグループ

- ・ 自分本位より他人本位
- ・ 能力より人柄 ↑ 人柄が人生を切り拓く
- ・ 自分がいつも二の次

◆Bグループ

- ・ 能力より人柄
- ・ 自分本位より他人本位
- ・ 自分は二の次

◆Cグループ

- ・ 人柄が運命を変える
- ・ 気づく人になる
- ・ 人を待たさない

◆Dグループ

- ・ 自分本位から他人本位へ
- ・ 自分は二の次
- ・ 心の荒みをなくす

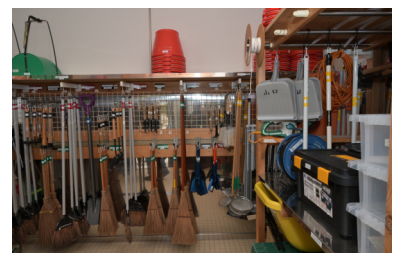
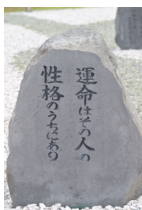
◆Eグループ

- ・ 自分は二の次
- ・ 人柄が運命を切り拓く
- ・ 次の人のことを考える

次の2つの言葉に多くの感動の声が寄せられました。

◎能力より人柄

◎自分本位より他人本位





寺田一清先生に導かれて ⑦ 近藤 宏枝

「至誠の人・吉田松陰先生」

寺田一清先生が編集せられた『ものごと伝記シリーズ21』全二十一巻は、平成十四年七月に登龍館の田中樞子様のご尽力により発刊されました。寺田先生はそのあとがきにこう記されています。「森信三先生が、生涯かけてお説きになった本旨のほどを思い直します時、その根本は「日本民族の教育再建」ではなかったかと思われてなりません。とりわけ最晩年においての心願は、次代を背負う幼少年にむけ「感動ある力強い生き方の種まき」であり、少年少女のための「偉人伝記」の発行を企画なされました。ところが発願を果たされないで、その生涯を了えられました。」寺田先生は、森先生のこの切なる念いを叶えるべく二十一世紀に歩みを進めました。

その際に選ばれた偉人でありますが、森信三先生は殊の外、徳川時代の先哲を尊ばれ、その中のお一人に吉田松陰先生が居られます。

松陰先生は萩藩士の次男として生まれました。今期の「人間学塾・中之島」の春季宿泊研修地は、例年の関西圏から山口県萩市へ場を移しての研修となり、松陰先生の遺蹟を巡る旅に大きな学びを頂いたのでした。私は今回の旅から帰宅して『伝記シリーズ』の『吉田松陰』を再読せずにはおられず、彼の地に思いを馳せ、何度胸を篤くしました。一文を記します。「安政六年(一八五九年)七月九日、松陰は幕府から取り調べをうけました。(略)『留魂録』を書きあげた翌日の朝、伝馬町の刑場に引かれていく前に、一身はたとひ武蔵の野辺に朽ちていとも留め置かまし大和魂の一首を、次の詩とともに、声高らかに吟じました。「吾れ今このために死す 死して君親に背かず 悠々たり天地の事 鑑照 明神にあり」そして、松陰は服装を正し、静かに眼を閉じました。」私達はまだまだ、先哲に真摯に学ばねばならないと思います。

森信三先生は「真理は感動によって授受される」と説かれているのです。

佐川博敏塾生の南極圏ツアー体験報告

【期間】 2024年12月から2025年3月まで
95日間のクルーズツアー。7万トンの客船
寄港地17。乗客1800人。平均年齢75歳】



なぜ南極

私は学生時代から世界中を旅してきました。仕事・休暇で日本国内では北海道の利尻島から沖縄・与那国島までを旅した。海外では世界中を回り、2024年の3月にオーストラリアをフィリピンで見てきた。私の旅のすべては完了したと思います。ところが、2024年の夏馬頭琴の奏者が満天の星に圧倒された。まだまだ未知の世界が存在していると感じました。次の目的地をパンフレットで見たのは、

「南極」

オプショナルツアーがクルーズの寄港地ごとに計画されている。主な訪問地である南米、イースター島、パタゴニア、ブラジル、アルゼンチン、アフリカ、南アフリカ共和国、マダガスカル等初めての未知の訪問地がある。特に食事や長距離移動に対する不安が少なく、クルーズの快適さが魅力的。日本食へのこだわりもある中で、クルーズではより慣れ親しんだ食事が提供される可能性が高く、移動の労力や食事の心配をせずに目的地を楽しめる点が理想的。というわけで南極まで船旅を決断した。



計報 元塾生の足立研治様(享年99歳)がご逝去されました。謹んでお悔み申し上げます。合掌。

《人間学塾・中之島》次月案内

◇日時 令和7年6月14日(土) 13時

◇会場 大阪大学中之島センター 10階ホール 34

◇講師 岩崎 一郎 先生

(脳科学者・医学博士)

テーマ

「利他の心が脳を活性化する」



脳科学をビジネスに活用して全社員が脳が活性化し、最大限のパフォーマンスを引き出す組織づくり(集合知性)を支援する、研修・コンサルティングを提供中。

第14期入塾説明会も開催します

【入塾体験募集】参加費 4000円

大切なご友人を是非お誘いください。

※入塾体験に参加された方が、第14期に入塾された場合、塾費より当日の受講料は差し引きします。

編集後記

山口研修にご参加された皆様。いかがでしたか。山口研修の山先生のご講演。三先生のご講演。松陰先生の遺蹟を巡る旅に大きな学びを頂いたのでした。私は今回の旅から帰宅して『伝記シリーズ』の『吉田松陰』を再読せずにはおられず、彼の地に思いを馳せ、何度胸を篤くしました。一文を記します。「安政六年(一八五九年)七月九日、松陰は幕府から取り調べをうけました。(略)『留魂録』を書きあげた翌日の朝、伝馬町の刑場に引かれていく前に、一身はたとひ武蔵の野辺に朽ちていとも留め置かまし大和魂の一首を、次の詩とともに、声高らかに吟じました。「吾れ今このために死す 死して君親に背かず 悠々たり天地の事 鑑照 明神にあり」そして、松陰は服装を正し、静かに眼を閉じました。」私達はまだまだ、先哲に真摯に学ばねばならないと思います。

編集長 西村俊幸